

(2) ドリンクタイムについて

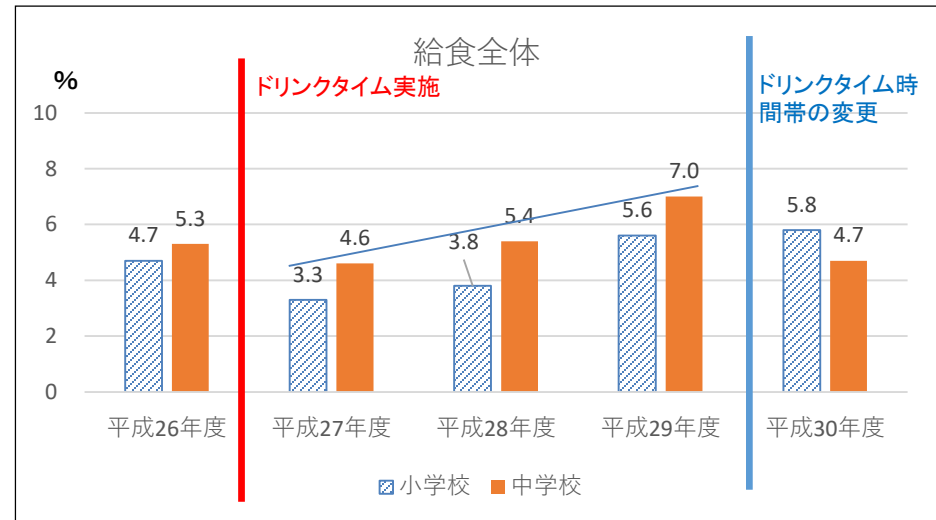
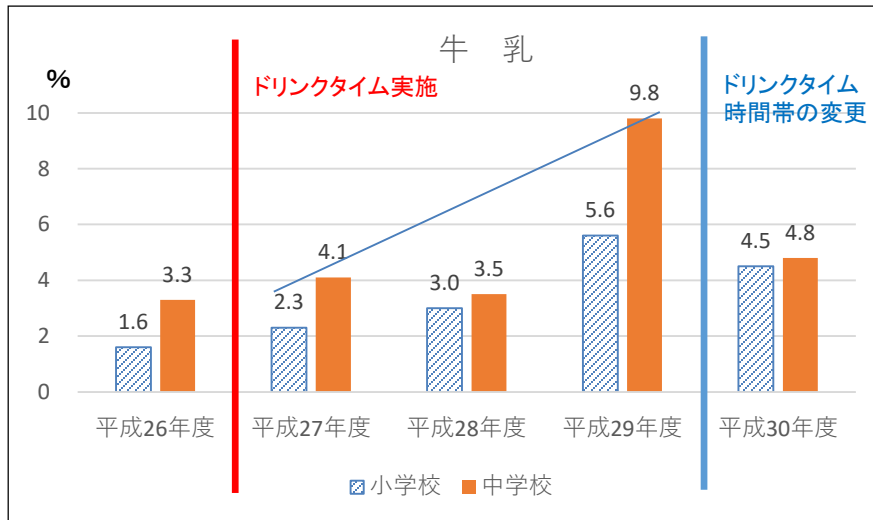
牛乳の残量調査の検証

平成30年度の残量調査における牛乳の残食率は、前年度と比較して、小学校では5.6%から4.5%と1.1ポイント、中学校では9.8%から4.8%と5.0ポイント、いずれも減少している。

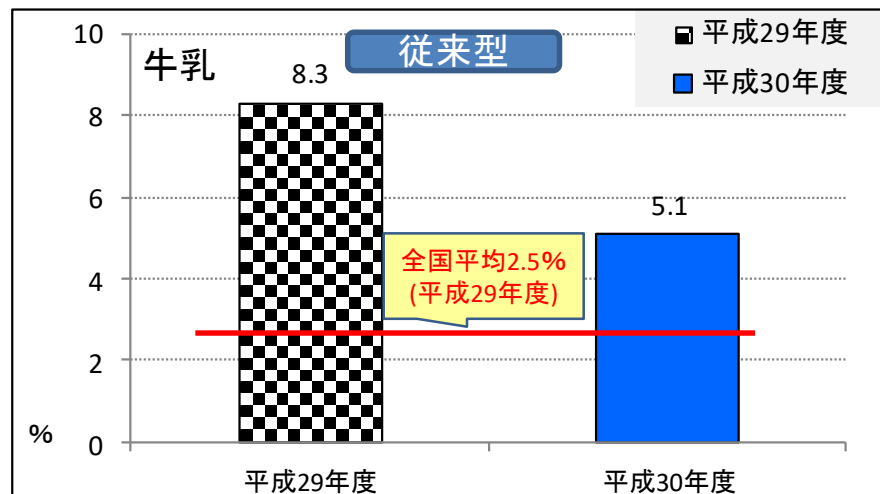
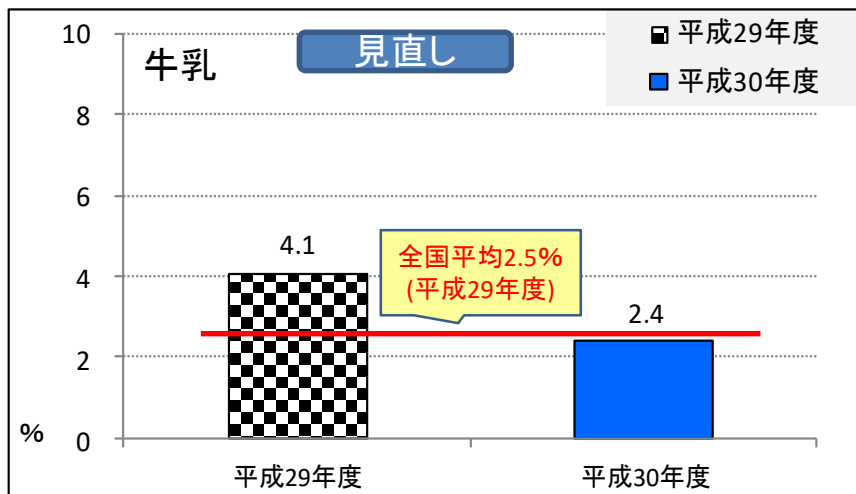
ドリンクタイム導入前の平成26年度からの推移では、ドリンクタイムを導入した平成27年度以降、上昇傾向にあったものが、本年度減少に転じており、ドリンクタイムの時間帯の見直しによる一定の効果が表れているとともに、給食全体としての残食率の減少にも寄与している。

また、本年度ドリンクタイムの時間帯を見直した学校と従来型の学校の平均値を比較したところ、見直しを実施した学校では2.4%、従来型の学校では5.1%と、見直しを実施した学校の残食率が低くなっている。

残食率の推移



取組別の残食率の比較



今後の取組

牛乳の残食率を減らす目的で実施したドリンクタイムの時間帯の見直しについて、ドリンクタイム導入後、上昇傾向にあった牛乳の残食率が、見直しを行った学校では本年度減少に転じるとともに、全国平均を下回る結果になり、一定の効果があったと考えられる。

他方、従来型校も残食率は減少しているが、まだ全国平均に近づいていないことから、平成31年度から順次、時間帯の見直しについての取組を拡大していくこととしたい。

なお、拡大に当たっては、従来型の複数学級の学校では、配膳や後片付けにより多くの時間が掛かることから時間短縮のための工夫が必要となるため、各学校の実情を踏まえた中で調整、連携しながら実施する。

また、市全体で前年に比べ残食率が減少していることは、学校現場における適切な指導によるものと考えており、引き続き、給食を残さず食べられるよう喫食指導に取り組んでいく。